

読谷

中学校

平和学習をとおして

読谷中学校

一年

松田

結愛

今年で戦後七十四年。私達は戦争中やその後のことをたくさん学んできました。その学んだ事をとおして考えたこと・思いはたくさんあります。

私がよく平和学習を始めて最初に思うことは、酷いや木当心まきあたこころということです。戦争の時の写真を見たり、体験談を聞いたり、記事を読んだりするたびに、現実にあつたことなのかと、疑いたくなります。でも、それと同時に、戦争のこともや平和の幸せさも知ることができます。

戦争のことを知ることでも、とても悲しい気持ちや、いかりなどをおぼえることもあります。すが、その気持ちを持ち続けていけないと平和な時間はすぐになくなってしまふと思ひます。なので私は、これから平和学習を行いたいと思ひます。

私が今まづに行つた平和学習をとおして、

読谷

中学校

一番記憶に残っていることは、自分が往んでいる読谷の戦跡やそこであつた出来事などです。得に、シムクガマと千ビ千リガマのことです。この二つのがマのことは、小学校の時からたくさん話を聞いたり、実際に行つた事もあります。現地にいつた時に思つたこと、学んだことは、二つあります。

一つ目は、現地に行かないと分からない恐怖です。どちらにも敵にみつかからないような場所にあるのでとても暗かつたです。シムク

ガマは、中に入つてよい許可がでていたのでみんなが入つてみるとライオンではすぐにこけてしまひそうなぐらい、暗くてすべりやすかつたです。この場所で戦時中かくれていた人は、不安が倍になつていたんじゃないかなあと思ひました。

二つ目は、現地へ話をもう一回思い出すと本当に同じ感かくもあじわつているような感じになることです。

私は、平和学習は見る、聞く、読むだけで

読谷

中学校

なく、現地にいて感じることもいいと思いません。

これまで平和学習をおして思ったこと感じたことなどを私達の口からも後世の人達へ伝えていき、今私達が生きている世界がどれほど自由で豊かなのかを知ってもらえるようにしたいです。